



ボート 第100回全日本選手権・男子フォア 戸田中央総合病院 RC が日本一



photo by 山田龍偉

全日本選手権・男子フォアを制した戸田中央総合病院 RC
(左から) 小林雅人、勝又晋一、植竹寛弥、中曽根祐太

今年で1000回目を迎えたボート競技日本最高峰の大会「全日本選手権」が5月12日から15日の4日間、東京都江東区の海の森水上競技場で行われ、男子フォア（2000級）で戸田中央総合病院ローイングクラブ（小林、勝又、植竹、中曽根）が6分25秒81のタイムで4年ぶりの栄冠に輝いた。

今大会は、テクニククの優れたベテランの小林が船手（バウ）を務め、クルーの舵取り役となる整調（ストローク）には今年チームに加入した中曽根を抜てき。エンジンの役割を果たす2番・3番にはパワー型の勝又・植竹を配置した。当日は強風で波が荒れる悪条件も「選手全体のレベルが上がった」と主将の勝又が語ったとおり、中曽根がリズムを作り、4人がシンクローの合った力強い漕ぎでレース中盤に他のクルーを一気に引き離れた。

レースを振り返り、「このクルーは今までの競技人生で一番安心感があった」と中曽根。ベテランと若手による強固な信頼関係で掴んだ日本一の栄冠に大きな拍手を送りたい。

私が薦める

連載 読んでおきたい本



〈推薦者〉



勝又 晋一 さん

戸田中央総合病院

今年5月に行われた第100回全日本選手権（ボート）男子フォアで4年ぶりの優勝に貢献。2017年にはシニア日本代表に選出。同年の愛媛国体優勝など、長年にわたり県ボート界を牽引。戸田中央総合病院 RC 主将。

本書は、冬季五輪に二度出場されたフィギュアスケートの鈴木明子選手の著書です。手がほとんどを占める中、鈴木選手は冬季五輪初出場が24歳、全日本選手権初優勝が、自身13度目の挑戦で当時の最年長記録である28歳と、大器晩成型の選手として知られています。本書の内容は、早熟型の選手が多いフィギュアスケート界の中で、鈴木選手が何度も壁に直面しても諦めず、壁を乗り越えるまで努力され、トップ選手に上り詰めた過程が綴られています。これからトップ選手を目指す学生の方や、それを見守る保護者の方、また、壁に直面する全ての方におすすめできる一冊です。



鈴木 明子 著
プレジデント社

壁はきっと越えられる
夢をかなえる晩成力